

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500394
法人名	社会福祉法人 宝集会
事業所名	グループホーム集い
所在地	愛媛県新居浜市東田3丁目乙11番地86
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 2 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にも謳われているように、入居者の皆さんが心から喜び、心から嬉しく思っていたけよう、日頃から温かい声掛けで接しております。 笑顔・笑い声が入居者と職員共にみられています。
ご本人の持つておられる機能を出来るだけ維持向上されるように、ご自分で出来る事は自身でしていただき、出来ないところの支援をさせてもらっています。 役割を持たれる事で使命感を感じてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目の事業所では、職員会で前回の外部評価結果や次のステップに向けて期待したい内容、日々支援を行うなかで良い点や改善点などの話し合いを行い、より良いサービスが提供できるよう取り組んでいる。職員間で話し合った内容や外部評価結果は運営推進会議で報告しており、参加者から意見をもらい、少しずつサービスの向上につなげている。職員は理念を意識し、利用者や家族、職員が協力して一丸となり支援できるよう努めている。また、利用者が明るく楽しい生活を毎日送れるよう心がけている。家族との信頼関係も深まりつつあり、家族の協力を得ながら利用者の希望に沿った外出支援等が行えるよう努めている。事業所の敷地内の畑で野菜づくりをするなど、利用者の生活の中に楽しみが持てるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム集い

(ユニット名)

歓

記入者(管理者)

氏 名

伊藤 一徳

評価完了日

平成 26 年 1 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開所後2年目になりますが、各ユニット共に笑い声がよく聞かれています。今後も理念を大切に位置付け心から飲んでいただけ安心した生活が送れるような施設を目指して行きます。 (外部評価) 「『歓』と『心』をつなぐ集いの場所」という事業所の理念は、各ユニット名になっている。職員は利用者が心から飲んで笑って一日を過ごせるように、利用者に働きかけながら理念が実現できるよう努めている。また、利用者の話をゆっくり聞いており、穏やかに暮らせるよう配慮している。また、事業所の理念を知り、ここで働きたいと応募があり採用された職員もいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に入会し地域の行事（文化祭・公民館祭・とうど祭等）には、参加するように心懸け地域とのつながりを大切に考え日常的に交流をしています。 (外部評価) 運営推進会議の出席者から行事の情報や誘いを受け、とうど祭りや太鼓祭りなどに積極的に参加して交流をしている。事業所での誕生日会や長寿会には、フラダンスや日舞、漫談などボランティアの訪問があり披露をしている。地域の散髪屋を利用するなど、事業所から地域へ出ていくことを心がけている。また、家族の協力を得て地域とのつながりを広げようと努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地元地域の人達は勿論のこと、地元地域でない人達からの相談事についても連絡があれば、随時対応しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、家族や地域の自治会長・公民館長・民生委員の方等参加していただいております。多くの意見や助言を受けています。 いただいた意見や助言は、その場限りではなく継続的に受けており、ありがたくサービスの繁栄に活かされています。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、公民館長、地区社協支部長、自治会長、民生委員、市議会議員、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会議では事業所の活動や課題などの報告を行うほか、事業所を理解したうえで意見や進言をもらい、より良い事業所になるよう誠実な取り組みを続けている。また、丁寧に詳しくまとめられた議事録は、家族にも送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に地域包括センター職員も参加してくださっており、困難事例や事故の改善策など助言をいただいている。福祉課の事業所指導係の方には、介護保険法の解釈等について教えていただいたりしている。	
			(外部評価) 地域包括支援センター所長等が運営推進会議に参加しており、市内の事例を踏まえながら意見をもらっている。市担当者に事業所で起こった事故や感染症を時系列を追って報告を行い、助言や指導を得ている。また、分からないことは相談しており、良好な関係を築いている。また、2か月に1回介護相談員の訪問があり、事業所や利用者の様子を知ってもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ①切迫性②非代替性③一時的 以上の三つの条件を満たしている場合に限り、家族の承諾を得る事をふまえ、スタッフ会等で話しあっています。 正面玄関は、自動式で内側から職員の開閉となっている。外に出たい帰宅願望の入居者へは、安全を考え職員とマンツーマンにて自由に入出入り出来るように努めています。	
			(外部評価) 前回の外部評価「次のステップアップに向けて期待したい内容」の項目を受けて、職員全員に身体拘束の行為などのアンケート調査を実施し、結果を取りまとめている。結果をもとに職員間で話し合い、今後の取組みや改善策を運営推進会議でも報告して参加者から多くの意見を得ながら、身体拘束をしないより良いケアが提供できるよう努めている。職員は、利用者に無理強いしないような声かけや見守りの方法に気をつけて支援している。また、外出しようとする利用者には見守りで対応しており、畑での野菜づくりなどを手伝ってもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 各職員に、スタッフ会等の勉強会で高齢者虐待防止法等について学習を行っています。 管理者は、事業所内で虐待が起こる事のないように、日常的に注意を払っています。 地域包括支援センターの介護相談員の方々も自由に来ていただき、入居者の皆さん達の様子も伺ってもらっています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在のところ入居者で成年後見制度の利用をされている方はいないが、理解出来るように施設内での勉強会で取り上げています。 研修の機会があれば、参加するようにしています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結の際は、料金やケアについての考え方・取り組み方について、また退去を含めた事業所の対応可能な範囲について、重要事項の説明を行いながら都度質問等にも応対し、疑問の残らないようにしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関には意見箱を設置し、意見や要望の把握に努めると共に、運営推進会議にも参加していただき意見を表出できる機会の確保に努めている。 また、なかなか表出できないケースも考えられるため、面会時での時間を大切に考え、出来るだけ話し合える雰囲気作りにも注意している。いただいた意見は、スタッフ会等で職員の共通の認識に成るべく話し合っています。 (外部評価) 開設2年を経て家族との信頼関係が深まりつつあり、家族から率直な意見をもらえるようになってきている。家族から出された意見を1つずつ対応するよう努めている。ユニット毎に連絡ノートを作り、利用者や家族の要望や意見を職員間で共有できるようにしている。日頃から家族の面会が多く、その日の行事と一緒に参加してもらうなど交流を深めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 法人代表者や管理者は、職員の考えや意見を自由に発言できる環境作りを常に心掛けている。 職員全体会には、法人代表者に出席してもらい、職員の自由な意見を見聞してもらっている。 (外部評価) 日頃から職員間で意見を言いやすい雰囲気づくりができており、ユニット毎のスタッフ会では職員は自由に意見を伝えることができる。管理者は職員から出された意見を法人事務局に報告し、意見や助言をもらい対応をしている。また、法人理事長は運営推進会議や全体会に出席しており、事業所のことを気に留め事業所の様子を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得や研修参加の希望があれば、出来る限り参加してもらっている。 各職員の希望や思いを大切に考えていると共に公平で一定のルールに則った人事考課を毎年実施し、賞与等の査定に役立てています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内での勉強会が中心となって法人外の研修が少なかった。 法人外の研修では、研修後の報告書を作成提出し、職員全体会での発表を行い共通の認識となるように努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着部会研修に一般職員が参加出来る場合には、積極的に参加させてもらっている。 相互評価については、実施されていないため、相互評価を実施し、他グループホームへの派遣や、他グループホームの受け入れを実施したい。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に、アセスメントの時間を十分に確保し、本人の要望の把握や関係づくりにつとめているが、家族の状況等を考え早急に入居が必要な場合も多く、十分とは言えない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族との面談では、十分に時間を確保し家族の話をよく聞き 安心して家族を預けていただけるような関係づくりに努めて いる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 相談時は、グループホーム入居ありきではなく、その時点に 一番合ったサービス情報を提供し、必要に応じて他のサービ スの利用調整を含め支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 職員は、入居者を介護される一方的な立場に置かないよう入 居者に地域の歴史や昔の歌などを教えてもらう機会を確保す るなどしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族面会時には、自室にて一緒に過ごしていただき本人の変 化等職員が気付かないことなど、アドバイスいただくなど、 共に支えていく関係を築けるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 散髪や買い物に関しても、本人の馴染みの店があれば出来る 限りお連れするようにしているが、入居者の遠慮等もあり十 分とは言えない。 (外部評価) 友人やボランティアの訪問をきっかけとして、利用者は昔の ことをよく話してくれることがあり、馴染みの人や場所を聞 き出せる場合がある。利用者自身が子育てした地域や勤務し ていた学校など、馴染みの場所に出かけられるよう支援して いる。病院受診などで外出した場合には自宅周辺に立ち寄る など、利用者の馴染みの関係が継続できるよう支援してい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 作業レク等では、本人のレベルに応じて役割りを分担し、入居者同士が関わりあえるよう支援している。また、日常生活でも入居者同士の助け合いについては危険がないよう見守り、場面により介助行うなど臨機応変に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) お亡くなりになられた事例以外でのサービス利用（契約）終了者はおられないが、今後契約終了が発生した場合は、必要に応じて本人や家族の支援に努めていきたい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりが何を希望し何を求めているのかを知るために、入居者さんに寄り添い意向の把握に努めている。また、家族面会時に入居時になかった情報を得られた場合はフェイスシートに追記するなど、出来る限り本人本位の生活が送れるよう努めている。 (外部評価) 利用者の日々の会話を良く聞き、思いや意向を聞きとるよう努めている。また、思いの把握が困難な利用者には生活歴や表情や行動などからくみ取るよう努め、職員間でより良いサービスが提供できるよう検討している。新たに得た情報はユニット毎の連絡ノートやケース記録に記載し、職員が共有できるようにしている。また、気持ちが沈みがちな利用者には家族にその状態を伝え、電話や訪問により気分転換してもらうなど、利用者の思いに寄り添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前及び入所時に家族や本人から生活歴、生活環境などについて詳しく聞き把握に努めている。また、把握した情報については、フェイスシートを通して各職員が理解するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ユニット会で各入居者の現状について話し合い、チームとして総合的に情報を把握するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画やモニタリングは、ユニット職員全員の意見やアイデアを反映したものになるようにしている。家族等の意見や要望については面会時の近況報告の際に把握に努めている。 (外部評価) 利用者毎の担当者が利用者や家族の意見をまとめて、職員間で話し合い介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、利用者の状態の変化があった場合は見直しをしている。また、職員に介護計画が分かりやすいよう、ユニット毎に利用者全員の1か月分のニーズとサービス内容をまとめて、常に介護計画を意識したサービスが提供できるよう取り組んでいる。また、介護計画に沿った介護記録は分かりやすく青色で記入し、確認しやすいよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常の個別記録を基に申し送りを行い、職員間で情報を共有し日々の実践及び介護計画につなげている。また、医療的なことについては、連絡帳を別に作成し特に情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族のニーズに対応して通院介助や薬の代行受領、散髪への送迎、外出など状況に応じた支援をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域社会の一員としてイベントや行事に参加し、人々と触れ合うことで楽しい生活が送れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の受診の際は、家族の協力を得て出来る限り看 護師が同行し、入居者の情報提供や今後の対応について相談 を行うようにしている。	
			(外部評価) 希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続して受診す る利用者が多い。家族が同行できない場合は職員が受診介助 を行い、受診内容は家族に報告して情報を共有している。ま た、利用開始前に緊急時に搬送する病院を確認している。協 力医も充実しており、利用者は安心して生活を送ることがで きる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤職員として看護師1名を配置し、介護職員の気づきや相 談にすばやく対応できるようにしている。また、入居者が適 切な受診や看護を受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、入居者が安心して治療を受けられるように情報提 供表を作成し、情報提供に努めている。入院後も必要に応じ て病院等に連絡を取り、情報交換を行うようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に重度化や終末期の対応について事業所で、出来る 事、出来ない事について十分説明し、同意書に署名しても らっている。	
			(外部評価) 「入居者の重度化した場合における対応に係る指針」を作成 しており、事業所として対応できる内容を利用開始前に利用 者や家族に説明し、同意を得ている。事業所には常勤の看護 師が1名配置されており、緊急時にも迅速な対応ができてい る。利用者の状態に応じて、家族と話し合いながら支援して いる。また、看護師を中心に重度化や急変時の対応、疾患な どの勉強会を定期的に開催し、職員の不安の解消など知識の 向上に努めている。職員はAEDの使用方法など、救命講習 を受けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急連絡網の整備をしている。急変時の対応については、全体スタッフ会等で、看護師より介護職員に伝達している。また、市の救命講習会にも参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導のもと、年2回（昼間・夜間想定各一回）避難訓練を行っている。運営推進会議でも自治会へ災害時の協力をお願いしている。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施している。家具は倒壊防止の対策を取り、地震等の災害にも備えている。非常口に段差があったが、利用者が安全に避難しやすいよう段差解消を行っている。職員は常に利用者が安心安全に避難できる誘導方法を考えるなど、防災意識を高めている。	災害時には利用者が安全に避難できるよう、職員一人ひとりの役割を確認し、職員間での話し合いや訓練を重ねることを望みたい。また、可能な範囲で備蓄品を用意することを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ時、更衣時等のプライバシーの配慮はもちろん、日頃の言葉かけにおいても誇りや人格を尊重した言葉かけを徹底している。 (外部評価) 職員は利用者を尊重し、同じ目線で会話をすることを心がけている。認知症ケア専門士の資格を持つ職員がおり、その都度利用者との関わりについて職員にアドバイスしている。利用者に関する書類は鍵のかかる棚に保管し、適切な取り扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 声かけ、傾聴による本人の思いや気持ち、表情や行動を注意深く観察することにより入居者の希望を知るように心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個人のペースに合わせた生活をしていただくように声をかけを頻繁にして気持ちの把握に努めている。好みの作業を提供して、職員も共に行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 髭剃りや整容を本人と共にしたり馴染みの美容院へ行っている。おしゃれの相談にもものって洋服のコーディネートも行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 意欲のある方は盛り付けや下膳を行ってもらっている。何もしたくないという方には無理強いしないようにしている。また、味付けや刻みにするなど食べ易く工夫している。	
			(外部評価) 食事は栄養面や衛生面に配慮しておかずを外注し、ごはんやみそ汁などは事業所で調理している。誕生日会や行事の時には職員が食事を手作りしており、特に手作りの誕生日ケーキは利用者に喜ばれている。利用者は職員と一緒に皿洗いや米を研ぐなどできることを役割を持って手伝っている。花見の時などにはお弁当やおやつを持って出かけることもあり、食事が楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 外注によるバランスの摂れた食事を提供している。また、起床時に水分補給をしていただく方など、各入居者の一日の水分摂取量・よく飲んで下さる時間帯を考えて水分補給を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケア、義歯洗浄は本人の残存能力に合わせ、毎食後行っているようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 自立している方以外は各入居者の排泄リズムに合わせトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 利用者がトイレで排泄ができるよう努めている。利用者の身体状況に応じて、家族と相談しポータブルトイレを使用している利用者もいる。常に排泄介助などの支援の必要な利用者もいるが、利用者にとってより良い排泄方法を職員間で話し合い、状態に合わせて排泄支援をしている。排泄後には職員が清拭にあたるが多く、清潔保持と感染症予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品などを提供し、自力歩行可能の方には散歩を促している。 便意の訴え時は、素早くトイレ誘導を行うようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日は決めているが入りたいと申し出がある場合、入浴していただいている。拒否があれば少し時間をおいて声かけをしたり違う日に入浴してもらうなど臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 週3回を基本として利用者は入浴することができる。入浴の苦手な利用者には、無理強いしないように努め、気分転換をしてもらいながら入浴してもらえるように努めている。浴槽をまたぐのが難しい利用者には、シャワーチェアに座ってシャワー浴や足浴を行い、満足が得られるよう配慮しながら支援している。冬場は寒さへの配慮に努め、利用者が入浴しやすいよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のペースに合わせ、適切な室内温度にして自室で休息をお願いしている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋の確認をしながら、一人ひとりの薬の目的や副作用について各職員が理解するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 掃除、洗濯物のたたみ、塗絵など各人の力に合わせた役割で、楽しみお話ししながら作業をしていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的な外出は、入居者の状態によりできないことが多いが、職員やご家族同伴にて希望時お連れしている。 (外部評価) 病院受診など外出するついでに、ドライブや外食を楽しんでもらい、利用者が気分転換できるよう支援している。外出先のトイレなどが使用しやすいまとを事前に確認し外出するようにしている。緑や花、水が揃う公園は利用者に人気があり、季節に合わせて外出できるよう支援している。また、利用者がまんべんなく外出できるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の能力を見極め、金銭管理が可能な方については、自分で金銭管理を行ってもらっている。また、日頃の管理が難しい方でも買い物の際はお金を渡し、職員が見守ることにより、支払いを本人が行えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者の要望に応じて、郵便物の投函や電話の取次ぎをさせて頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共同空間の音や室温等は職員が調整し、快適に過ごせるよう心がけている。季節感の取り入れについては入居者と共に四季折々の飾りを作り、リビングや廊下に飾りつけている。異食がみられる入居者がおられるので、花を飾るなどについては最小限にとどめている。	
			(外部評価) 南向きのリビングは日当たりが良く、利用者がカーテンを使用して外光の調整を自由に行っている。ホワイトボードに月の行事や季節のことを大きく書き、利用者が分かりやすいよう工夫をしている。玄関周りにはベンチが置かれ、外気浴ができるようになっている。感染予防のため、共用空間の湿度や換気にも努めている。また、掃除は利用者にモップや掃除機かけをしてもらうなど、できる役割を手伝ってもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング内では一人ひとりの入居者に合わせ、仲の良い方を近くに居れる座席配置にしている。一人の時間を大切にしている入居者には一人で過ごして頂いている。居室での時間を大切にされる方には居室にて過ごして頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が居心地良く過ごして頂ける様馴染みの置物や、写真・持ち物・寝具など配置し、快適に過ごして頂ける様配慮している。	
			(外部評価) 居室は馴染みのものや使い慣れたものを持ち込むことができる。居室には誕生日プレゼントや表彰状を飾るなど、利用者の思い思いの居心地良い空間づくりをしている。利用者の中には、テレビや冷蔵庫も持ち込みをしている方もいる。なお、インフルエンザなどの感染予防のため、利用者や家族の了承を得て、高い棚の上にウイルス除去の薬剤を置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 適切な場所への手すりの配置・バリアフリーにより、安全に過ごして頂ける様配慮している。また、入居者の出来るテーブル拭き等出来ることはしていただいている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500394
法人名	社会福祉法人宝集会
事業所名	グループホーム 集い
所在地	愛媛県新居浜市東田3丁目乙11番86
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 6 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 2 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にも謳われているように、入居者の皆さんが心から喜び、心から嬉しく思っていただけよう、日頃から温かい声掛けで接しております。 笑顔・笑い声が入居者と職員共にみられています。
ご本人の持つおられる機能を出来るだけ維持向上されるように、ご自分で出来る事は自身でしていただき、出来ないところの支援をさせてもらっています。 役割を持たれる事で使命感を感じてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目の事業所では、職員会で前回の外部評価結果や次のステップに向けて期待したい内容、日々支援を行うなかで良い点や改善点などの話し合いを行い、より良いサービスが提供できるよう取り組んでいる。職員間で話し合った内容や外部評価結果は運営推進会議で報告しており、参加者から意見をもらい、少しずつサービスの向上につなげている。職員は理念を意識し、利用者や家族、職員が協力して一丸となり支援できるよう努めている。また、利用者が明るく楽しい生活を毎日送れるよう心がけている。家族との信頼関係も深まりつつあり、家族の協力を得ながら利用者の希望に沿った外出支援等が行えるよう努めている。事業所の敷地内の畑で野菜づくりをするなど、利用者の生活の中に楽しみが持てるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム 集い

(ユニット名)

心ユニット

記入者(管理者)

氏 名

伊藤 一徳

評価完了日

平成 26 年 1 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」＋「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開所後2年目になりますが、各ユニット共に笑い声がよく聞かれています。今後も理念を大切に位置付け心から飲んでいただけ安心した生活が送れるような施設を目指して行きます。	
			(外部評価) 「『歓』と『心』をつなぐ集いの場所」という事業所の理念は、各ユニット名になっている。職員は利用者が心から飲んで笑って一日を過ごせるように、利用者に働きかけながら理念が実現できるよう努めている。また、利用者の話をゆっくり聞いており、穏やかに暮らせるよう配慮している。また、事業所の理念を知り、ここで働きたいと応募があり採用された職員もいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に入会し地域の行事（文化祭・公民館祭・とうど祭等）には、参加するように心懸け地域とのつながりを大切に考え日常的に交流をしています。	
			(外部評価) 運営推進会議の出席者から行事の情報や誘いを受け、とうど祭りや太鼓祭りなどに積極的に参加して交流をしている。事業所での誕生日会や長寿会には、フラダンスや日舞、漫談などボランティアの訪問があり披露をしている。地域の散髪屋を利用するなど、事業所から地域へ出ていくことを心がけている。また、家族の協力を得て地域とのつながりを広げようと努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地元地域の人達は勿論のこと、地元地域でない人達からの相談事についても連絡があれば、随時対応しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、家族や地域の自治会長・公民館長・民生 委員の方等参加していただいております。多くの意見や助言を受け ています。 いただいた意見や助言は、その場限りではなく継続的に受け ており、ありがたくサービスの繁栄に活かされています。 (外部評価) 運営推進会議は家族、公民館長、地区社協支部長、自治会 長、民生委員、市議会議員、地域包括支援センター職員等の 参加を得て開催している。会議では事業所の活動や課題など の報告を行うほか、事業所を理解したうえで意見や進言をも らい、より良い事業所になるよう誠実な取り組みを続けてい る。また、丁寧に詳しくまとめられた議事録は、家族にも送 付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に地域包括センター職員も参加してくださっ ており、困難事例や事故の改善策など助言をいただいている。 福祉課の事業所指導係の方には、介護保険法の解釈等につい て教えていただいたりしている。 (外部評価) 地域包括支援センター所長等が運営推進会議に参加してお り、市内の事例を踏まえながら意見をもらっている。市担当 者に事業所で起こった事故や感染症を時系列を追って報告を 行い、助言や指導を得ている。また、分からないことは相談 しており、良好な関係を築いている。また、2か月に1回介 護相談員の訪問があり、事業所や利用者の様子を知っても らっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ①切迫性②非代替性③一時的 以上の三つの条件を満たして いる場合に限り、家族の承諾を得る事をふまえ、スタッフ会 等で話しあっています。 正面玄関は、自動式で内側から職員の開閉となっている。外 に出たい帰宅願望の入居者へは、安全を考え職員とマンツウ マンにて自由に出入り出来るように努めています。 (外部評価) 前回の外部評価「次のステップアップに向けて期待したい内 容」の項目を受けて、職員全員に身体拘束の行為などのアン ケート調査を実施し、結果を取りまとめている。結果をもと に職員間で話し合い、今後の取組みや改善策を運営推進会議 でも報告して参加者から多くの意見を得ながら、身体拘束を しないより良いケアが提供できるよう努めている。職員は、 利用者に無理強いしないような声かけや見守りの方法に気を つけて支援している。また、外出しようとする利用者には見 守りで対応しており、畑での野菜づくりなどを手伝ってもら うようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 各職員に、スタッフ会等の勉強会で高齢者虐待防止法等について学習を行っています。 管理者は、事業所内で虐待が起こる事のないように、日常的に注意を払っています。 地域包括支援センターの介護相談員の方々も自由に來ていただき、入居者の皆さんの様子も伺ってもらっています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在のところ入居者で成年後見制度の利用をされている方はいないが、理解出来るように施設内での勉強会で取り上げています。 研修の機会があれば、参加するようにしています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結の際は、料金やケアについての考え方・取り組み方について、また退去を含めた事業所の対応可能な範囲について、重要事項の説明を行いながら都度質問等にも応対し、疑問の残らないようにしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関には意見箱を設置し、意見や要望の把握に努めると共に、運営推進会議にも参加していただき意見を表出できる機会の確保に努めている。 また、なかなか表出できないケースも考えられるため、面会時での時間を大切に考え、出来るだけ話し合える雰囲気作りにも注意している。いただいた意見は、スタッフ会等で職員の共通の認識に成るべく話し合っています。 (外部評価) 開設2年を経て家族との信頼関係が深まりつつあり、家族から率直な意見をもらえるようになってきている。家族から出された意見を1つずつ対応するよう努めている。ユニット毎に連絡ノートを作り、利用者や家族の要望や意見を職員間で共有できるようにしている。日頃から家族の面会が多く、その日の行事と一緒に参加してもらうなど交流を深めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 法人代表者や管理者は、職員の考えや意見を自由に発言できる環境作りを常に心掛けている。 職員全体会には、法人代表者に出席してもらい、職員の自由な意見を見聞してもらっている。 (外部評価) 日頃から職員間で意見を言いやすい雰囲気づくりができており、ユニット毎のスタッフ会では職員は自由に意見を伝えることができる。管理者は職員から出された意見を法人事務局に報告し、意見や助言をもらい対応をしている。また、法人理事長は運営推進会議や全体会に出席しており、事業所のことを気に留め事業所の様子を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得や研修参加の希望があれば、出来る限り参加してもらっている。 各職員の希望や思いを大切に考えていると共に公平で一定のルールに則った人事考課を毎年実施し、賞与等の査定に役立てています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内での勉強会が中心となって法人外の研修が少なかった。 法人外の研修では、研修後の報告書を作成提出し、職員全体会での発表を行い共通の認識となるように努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着部会研修に一般職員が参加出来る場合には、積極的に参加させてもらっている。 相互評価については、実施されていないため、相互評価を実施し、他グループホームへの派遣や、他グループホームの受け入れを実施したい。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に施設を見学してもらい、雰囲気を体験してもらっています。その際に、話す機会を設けて本人の不安なことや要望などよく聞くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) アセスメントシートに家族構成や入居前の様子などを記入してもらい、本人と同様に見学の時等に、色々な話を聞く機会を設けている。 また、施設からも情報を収集し活用出来るように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族の話を良く聞き、本人にとってよりよい支援が出来るように、施設の考えも伝えるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者一人ひとりの人格の尊重と、それぞれが出来る役割を持ってもらって、日常生活が送れるように支援している。 また、日々の生活の中でコミュニケーションを図りながら感謝する事を忘れないようにしています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族からの話しには、職員一同考えながら対応しています。 本人からの心配事や要望があれば家族にいち早く取りつぎながら相談し、双方の関係を損なう事のないように十分な配慮をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 今まで出会って来た方の中で強く印象に残っている人や場所をよく話題にしています。 本人も楽しく懐かしく思われるのか、とても喜んで話してもらっています。 (外部評価) 友人やボランティアの訪問をきっかけとして、利用者は昔のことをよく話してくれることがあり、馴染みの人や場所を聞き出せる場合がある。利用者自身が子育てした地域や勤務していた学校など、馴染みの場所に出かけられるよう支援している。病院受診などで外出した場合には自宅周辺に立ち寄るなど、利用者の馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者の皆さん達の共通の趣味や好んでいる事を引き出すと共に、出来ることや出来ない事を把握し、入居者同士でも楽しんでもらえるように努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入居者やそのご家族から、何らかの問い合わせがあれば、いつでも要望等に応えられるように考えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者の方々の思いや希望を尊重し、したい事を進んで行ってもらえる努力をしています。 ご家族からの希望についてもケアプランにも取り上げながら支援をしています。	
			(外部評価) 利用者の日々の会話を良く聞き、思いや意向を聞きとるよう努めている。また、思いの把握が困難な利用者には生活歴や表情や行動などからくみ取るよう努め、職員間でより良いサービスが提供できるよう検討している。新たに得た情報はユニット毎の連絡ノートやケース記録に記載し、職員が共有できるようにしている。また、気持ちが沈みがちな利用者には家族にその状態を伝え、電話や訪問により気分転換してもらうなど、利用者の思いに寄り添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生き立ちや、何をすれば喜んで生き生きとした生活を送れるのかを考え、入居時の資料を基に新たな発見があればご家族にも相談しつつ発展的な支援を試みています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活リズムや心身状況については、事前に把握するように努めています。 また、色々な感情の変化にもいち早く対応できるように、表情やしぐさ等の言動にも配慮しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 入居者ご家族のニーズを引出し、本人にとって何が必要かを話し合い、介護計画に基づいたサービス提供を行っています。	
			(外部評価) 利用者毎の担当者が利用者や家族の意見をまとめて、職員間で話し合い介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、利用者の状態の変化があった場合は見直しをしている。また、職員に介護計画が分かりやすいよう、ユニット毎に利用者全員の1か月分のニーズとサービス内容をまとめて、常に介護計画を意識したサービスが提供できるよう取り組んでいる。また、介護計画に沿った介護記録は分かりやすく青色で記入し、確認しやすいよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 職員間で連携を図り入居者の方々の生活の向上に努めています。 毎朝夕の申し送り時には、報告・連絡・相談を徹底している。 また、気づきのあった際には、連絡ノートを利用し職員全体の共通した認識として心掛けています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 健康管理に関しては、都度の状況によってご家族に連絡を取っているが、ご家族の都合も受け入れながら通院介助等を行っています。 本人からの要望も、ご家族に連絡を取りつぎ、双方のバランスが良くなるように努めています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 四季を感じていただくためにも、年間を通しての行事、イベントに参加し、地域の人達との触れ合いの時間を持てるように努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人やご家族が希望する医院への受診・往診が出来るように 努め、定期受診はご家族に協力をお願いしています。 ご家族に事情がある場合には、看護職員を中心として柔軟な 支援をしています。	
			(外部評価) 希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続して受診す る利用者が多い。家族が同行できない場合は職員が受診介助 を行い、受診内容は家族に報告して情報を共有している。ま た、利用開始前に緊急時に搬送する病院を確認している。協 力医も充実しており、利用者は安心して生活を送ることが できる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職員と看護師との連携をしっかりと持ち、報告連絡を徹底し て、指示等も受けています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 定期的に通院に行き状況を把握する事に努め、安心して治療 が出来、帰宅してからも安心して生活出来るような環境作り や病院関係者との情報交換に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期等の対応については、契約の際に説明させて いただいています。そう言った内容の話しをご家族からあつ た際にも都度、当施設の出来ることや出来ないことを説明さ せてもらっています。	
			(外部評価) 「入居者の重度化した場合における対応に係る指針」を作成 しており、事業所として対応できる内容を利用開始前に利用 者や家族に説明し、同意を得ている。事業所には常勤の看護 師が1名配置されており、緊急時にも迅速な対応ができてい る。利用者の状態に応じて、家族と話し合いながら支援して いる。また、看護師を中心に重度化や急変時の対応、疾患な どの勉強会を定期的に開催し、職員の不安の解消など知識の 向上に努めている。職員はAEDの使用方法など、救命講習 を受けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 町の救急救命士講習に参加し、心肺蘇生やAED使用法を学んでいる。救急救命士講習は全職員受講を行い1年半サイクルで何度も受講し、技量が身につくように努めています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を実施している。 災害に備えてのマニュアルを作成し、自治会にも加入しており地域の方々の協力体制にも配慮しています。	
			(外部評価) 年2回避難訓練を実施している。家具は倒壊防止の対策を取り、地震等の災害にも備えている。非常口に段差があったが、利用者が安全に避難しやすいよう段差解消を行っている。職員は常に利用者が安心安全に避難できる誘導方法を考えるなど、防災意識を高めている。	災害時には利用者が安全に避難できるよう、職員一人ひとりの役割を確認し、職員間での話し合いや訓練を重ねることを望みたい。また、可能な範囲で備蓄品を用意することを望みたい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員全員が一人ひとりの情報を熟知・共有し合い、その方に合った声掛けや接し方が出来るように心掛け、入居者の皆さんが穏やかに生活をしていただける様に努めています。	
			(外部評価) 職員は利用者を尊重し、同じ目線で会話をすることを心がけている。認知症ケア専門士の資格を持つ職員がおり、その都度利用者との関わりについて職員にアドバイスしている。利用者に関する書類は鍵のかかる棚に保管し、適切な取り扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 生活をしている中で何かをする時には、声掛けながら希望を伺って、本人の意志を尊重し支援をしています。 また、自己表出し良い環境作りにも留意しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の体調や様子を観察しながら、一人ひとりが何を望んでいるのかを、昨日の思いと今日の思いとでは違う事もあるので、一人ひとり本人の思いを大切に考え、過ごし易い環境に成るよう支援をしています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみやおしゃれは、日常生活においてとても重要視しており、一人ひとりが楽しみながら美意識を維持できるように、本人の好みを表現出来るように支援しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日の食事を楽しみにしてもらえようように白板を用意し、その日のメニューが解るようにしています。 盛り付けの準備や片付け、お盆拭きなんかも生活リハビリになるように行っています。	
			(外部評価) 食事は栄養面や衛生面に配慮しておかずを外注し、ごはんやみそ汁などは事業所で調理している。誕生日会や行事の時には職員が食事を手作りしており、特に手作りの誕生日ケーキは利用者に喜ばれている。利用者は職員と一緒に皿洗いや米を研ぐなどできることを役割を持って手伝っている。花見の時などにはお弁当やおやつを持って出かけることもあり、食事が楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 皆さんと一緒に食事摂取量・水分摂取ではなく、一人ひとりの状態や好みを把握し、ご家族からの自家製の品や本人希望の品を用意する事もあります。 その人に合った食事を楽しんでいただいています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアは大切である事と重要視しています。 毎食後一人ひとり声掛けしながらの見守り・介助にて実施している。 使用している歯ブラシ・コップは、定期的に消毒をし、義歯については、毎晩洗浄剤に浸け置きしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとり尊厳を守り、排泄の仕方を忘れないようにするためにオムツを使用せず、自立に向けた支援を行っています。 (外部評価) 利用者がトイレで排泄ができるよう努めている。利用者の身体状況に応じて、家族と相談しポータブルトイレを使用している利用者もいる。常に排泄介助などの支援の必要な利用者もいるが、利用者にとってより良い排泄方法を職員間で話し合い、状態に合わせて排泄支援をしている。排泄後には職員が清拭にあたるが多く、清潔保持と感染症予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の方には、水分を多めに摂ってもらったり、牛乳や果物を摂ってもらっています。 また、無理の無い運動をしてもらっています。 それでも便秘が続く様であれば主治医からの指導で処方されている緩下剤を頓服として飲んでもらっています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) その日その日の入居者の体調に合った入浴をしていただけるように心掛けています。(清拭・足浴) 入浴嫌いな方へは、少しでも気持ちよく入浴してもらえるような言葉掛けや雰囲気作りを行って入ってもらう様にしております。(週3回の入浴実施) (外部評価) 週3回を基本として利用者は入浴することができる。入浴の苦手な利用者には、無理強いしないように努め、気分転換をしてもらいながら入浴してもらえるように努めている。浴槽をまたぐのが難しい利用者には、シャワーチェアに座ってシャワー浴や足浴を行い、満足が得られるよう配慮しながら支援している。冬場は寒さへの配慮に努め、利用者が入浴しやすいよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者一人ひとりに合った休息の仕方だったり、安眠への心掛けをしています。 各居室は皆様の空間であり本人の思いを尊重しています。 また、居室内の安全面・衛生面にも訪室や声掛けにより確認しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬を処方される時にもらう説明書をよく読み、ケース記録内容等も理解し確認するようにしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 各入居者について、出来る事・出来ない事を把握し、出来る事をしていただき、使命感を持ってハリのある生活を営んでもらっています。 ボール遊びの好きな方、歌をうたうのが好きな方等、それぞれに合った楽しみ方で、気分転換をしていただいています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気や体調に配慮しながら、外へ出たり散歩を楽しんでもらっています。 外出の際には、生まれ育った地元にも訪れ、当時の話を聞きながら懐かしんでもらっています。	
			(外部評価) 病院受診など外出するついでに、ドライブや外食を楽しんでもらい、利用者が気分転換できるよう支援している。外出先のトイレなどが使用しやすいまとを事前に確認し外出するようにしている。緑や花、水が揃う公園は利用者に人気があり、季節に合わせて外出できるよう支援している。また、利用者がまんべんなく外出できるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が困難な方が殆どであり金銭は、施設が雑費として管理しています。 今は買い物に行けていないが、食材等の買い出しに同行できる機会を設けたい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族と話しをしたいとの希望があれば案内をしています。 困難な方へは、用件をよく聞き取り代わりに伝えたり、年賀状と一緒に書いてご家族に出しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) トイレ・浴室など不快な思いをしないように、使用後は清潔にしています。リビング内のカーテンの開閉は、光の差し込み加減で入居者ご自分達で自由にされている。 リビングには、季節に合った貼り絵や飾りを一緒に製作し飾っています。	
			(外部評価) 南向きのリビングは日当たりが良く、利用者がカーテンを使用して外光の調整を自由に行っている。ホワイトボードに月の行事や季節のことを大きく書き、利用者が分かりやすいよう工夫をしている。玄関周りにはベンチが置かれ、外気浴ができるようになっている。感染予防のため、共用空間の湿度や換気にも努めている。また、掃除は利用者にモップや掃除機かけをしてもらうなど、できる役割を手伝ってもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングから少し離れた所にソファを用意しており、一人でゆっくり過ごされたり、仲のいい方達とお話しされたり、個々に自由な時間を自由に過ごされています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が居心地良く安心して過ごせるように、寝具の持込みや家族写真を飾っています。 また、季節毎に馴染みの衣服を持参していただいています。	
			(外部評価) 居室は馴染みのものや使い慣れたものを持ち込むことができる。居室には誕生日プレゼントや表彰状を飾るなど、利用者の思い思いの居心地良い空間づくりをしている。利用者の中には、テレビや冷蔵庫も持ち込みをしている方もいる。なお、インフルエンザなどの感染予防のため、利用者や家族の了承を得て、高い棚の上にウイルス除去の薬剤を置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者の状態に合ったベッドの場所や高さ、柵の位置を考え、安全で快適に休んでいただいています。 食事の盛り付けやお盆拭きも積極的にされています。	